



公益社団法人日本記者クラブ
〒100-0011 東京都千代田区内幸町 2-2-1 Tel 03-3503-2722 Fax 03-3503-7271
Japan National Press Club 2-2-1 Uchisaiwaicho, Chiyoda-ku, Tokyo 100-0011
<http://www.jnpc.or.jp/>

プレスリリース Press Release

2019年4月26日

公益社団法人 日本記者クラブ

解禁時間はありません。
ただちに報道をお願いします。

芹川洋一・日本経済新聞論説フェローに日本記者クラブ賞 特別賞は金本麻理子・ディレクターと リチャード・ロイド・パリー ザ・タイムズ東京支局長に

公益社団法人日本記者クラブ（原田亮介理事長）は4月26日、理事会を開き、2019年度の日本記者クラブ賞を長期の政治報道で優れた業績をあげた日本経済新聞社論説フェローの芹川洋一氏（69）に、特別賞を金本麻理子・ディレクター／椿プロ代表取締役とリチャード・ロイド・パリー ザ・タイムズアジアエディター／東京支局長の両氏に贈ることを決めた。外国人の受賞は初めて。

贈賞式は5月27日、日本記者クラブで行い、賞状と副賞を贈る。

また芹川、ロイド・パリー両氏による受賞記念講演会を6月21日午後6時から日本記者クラブで行う。日本記者クラブ会員だけでなく、一般の方も参加できる。金本氏の受賞記念講演会の日程は後日発表する。

以下の資料を添付します。

【贈賞の理由】

【受賞者の紹介】

【日本記者クラブ賞と日本記者クラブ賞特別賞について】

【記念講演会の案内】

このプレスリリースの問い合わせは日本記者クラブ事務局（担当・村田、電話03-3503-2727）へ。

（了）

【贈賞の理由】

日本記者クラブ賞

芹川洋一（せりかわ・よういち）氏
日本経済新聞社論説フェロー

40年にわたり一貫して日本政治をウオッチし、記者生活の大半を政治報道に携わってきた。絶妙な距離感とバランス感覚に裏打ちされた解説は、分かりやすくて鋭い。アカデミズムと連携した多数の著書では、ジャーナリズムの在り方やメディアと政治の関わりを捉えなおそうと試みるほか、テレビキャスターも務めるなど、活動の幅は広い。2018年には平成政治の集大成的な『平成の政治』（編著）『平成政権史』を上梓し、高い評価を受けた。

日本記者クラブ賞特別賞

金本麻理子（かなもと・まりこ）氏
ディレクター／椿プロ代表取締役

番組制作会社の代表を務めながら、自らカメラを担いで数々のドキュメンタリー番組を制作してきた。特に戦争が当事者や子ども、女性に与えた影響という重いテーマに一貫して取り組み、戦争の記憶を次代に語り継ぐというジャーナリズムの重要な役割を果たしてきた。2018年に制作した「隠された日本兵のトラウマ～陸軍病院 8002 人の“病床日誌”～」では、兵士が戦地で発症した精神障害を取り上げただけでなく、彼らの戦後やその家族の苦悩まで描いている。その取材力には目を見張るものがあり、映像の持つ迫力と合わせ、形式化しがちな戦争ものとは一線を画すドキュメンタリーとなっている。

リチャード・ロイド・パリー(Richard Lloyd Parry) 氏
ザ・タイムズアジアエディター／東京支局長

1995年に英インディペンデント紙の特派員として来日、2002年からは英ザ・タイムズ東京支局長。インド洋大津波や日本の戦後60年を取り上げた一連の記事で海外のジャーナリズム賞を受賞。東日本大震災では、震災翌日から現場で被災者の取材に当たる一方、専門家から東北の歴史や風習などを取材した。著書『津波の霊たち—3・11 死と生の物語』では、遺族が経験した心霊現象や霊媒師という日本人ジャーナリストが取り上げていない事象を扱う一方、被災者や遺族と一定の距離を置きながら貴重な言葉を引き出しており、その取材姿勢は全ての記者の模範である。

【受賞者の紹介】

芹川洋一（せりかわ・よういち）氏

1950年4月22日、熊本県生まれ。69歳。東京大学法学部卒、東大新聞研究所修了。76年、日本経済新聞入社。政治部長、大阪本社編集局長、論説委員長、論説主幹などを経て2018年から論説フェロー。

朝刊コラム、社説の執筆のほか、大学教授との共著で政治とメディアのあり方を問い直すなどアカデミズムとの連携にも精力的に取り組んでいる。

御厨貴氏との編著『平成の政治』、単著『平成政権史』（いずれも日本経済新聞出版社）の2冊は、尾崎行雄記念財団主催「峯堂ブックオブザイヤー2018」の総合部門・メディア部門でそれぞれ大賞を受け、異例のダブル受賞となった。

金本麻理子（かなもと・まりこ）氏

1972年12月23日、埼玉県生まれ。46歳。十文字短期大学卒。92年、泉放送制作社入社。97年からテレビドキュメンタリー制作を始め、2011年に番組制作会社「椿プロ」を設立。代表でありながら自身もテレビディレクターとしてカメラを担ぎ、現場で取材にあたっている。

太平洋戦争中のインドネシアで、日本軍人とオランダ系女性の中に生まれた日系オランダ人姉妹の父親探しを数年にわたって追いつけた「父を捜して～日系オランダ人 終わらない戦争～」(17年10月)は18年放送文化基金ドキュメンタリー部門最優秀賞ほか、多数の映像賞を受賞した。近作に「隠された日本兵のトラウマ～陸軍病院8002人の”病床日誌“～」(18年11月)がある。

リチャード・ロイド・パリー (Richard Lloyd Parry) ※姓はロイド・パリー

1969年1月14日、英国マージーサイド州出身。50歳。オックスフォード大学卒。1995年、インディペンデント紙の東京特派員として来日。2002年からザ・タイムズ紙アジアエディター兼東京支局長。

2005年、二重被爆者の故・山口彊さんへのインタビューを含む、日本の戦後60年に焦点を当てた一連の取材がBBC「今年の外国特派員賞(What the Papers Say)」を受賞。ルーシー・ブラックマン事件を追った『黒い迷宮』、霊体験のエピソードを通じて東日本大震災で被災した人々を描いた『津波の霊たち—3・11死と生の物語』(いずれも早川書房)など、和訳され日本で高い評価を得ている作品も多い。

【日本記者クラブ賞と日本記者クラブ賞特別賞について】

日本記者クラブ賞は、千葉雄次郎氏（元日本新聞学会会長）が同クラブに贈った寄託金を基金として1972年、創設された。その後も、クラブへの寄付金を基金に積み増し、賞を運営している。報道・評論活動などを通じて顕著な業績をあげ、ジャーナリズムの信用と権威を高めた日本記者クラブ会員および法人会員社に属するジャーナリスト個人に贈る。今回の芹川氏を含め、受賞者は計54人になる。

日本記者クラブ賞特別賞は、クラブ賞創設40年を機に、より開かれた賞をめざして2011年度に新設された。原則としてクラブ会員以外の内外のジャーナリストやジャーナリズム活動に贈る。ジャーナリズムの向上と発展につながる特筆すべき業績や活動を顕彰する。

いずれも日本のジャーナリズムの高い水準を示す表彰であり、日本記者クラブの公益目的事業のひとつである。

日本記者クラブ賞歴代受賞者

www.jnpc.or.jp/activities/award/awards-prize/

【日本記者クラブ賞受賞記念講演会の案内】

2019年度日本記者クラブ賞を受賞した芹川洋一氏が平成の政治について、特別賞を受賞したリチャード・ロイド・パリー氏が東日本大震災取材について語ります。参加者の質問に答えていただく時間もあります。日本記者クラブ会員だけでなく、一般の方も参加できます。なお、金本麻理子氏の受賞記念講演会の日程は後日発表します。

出席者

芹川洋一・日本経済新聞社論説フェロー

リチャード・ロイド・パリー ザ・タイムズ・アジアエディター／東京支局長

日時 6月21日（金）午後6時～8時

会場 日本記者クラブ 10階ホール

定員 200人（申し込み先着順）

参加費 無料

応募方法

住所、氏名、年齢、参加人数、連絡先の電話番号をお書きのうえ、「往復はがき」かクラブのウェブサイト (<https://www.jnpc.or.jp>) からお申し込みください。1人の申し込みで2人まで応募可能です。折り返し参加の可否をご連絡します。
*返信用はがきにあて先をご記入ください。電話による申し込み・問い合わせもお受けできません。

*いただいた個人情報は本講演会以外の目的には使用いたしません。

送り先

100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-1

日本プレスセンター内

日本記者クラブ事務局「クラブ賞受賞記念講演会」係

URL : <https://www.jnpc.or.jp>